

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年9月1日（木）

2 確認箇所

瓦礫類一時保管エリアA1

瓦礫類一時保管エリアB

K4タンクエリア

3 確認項目

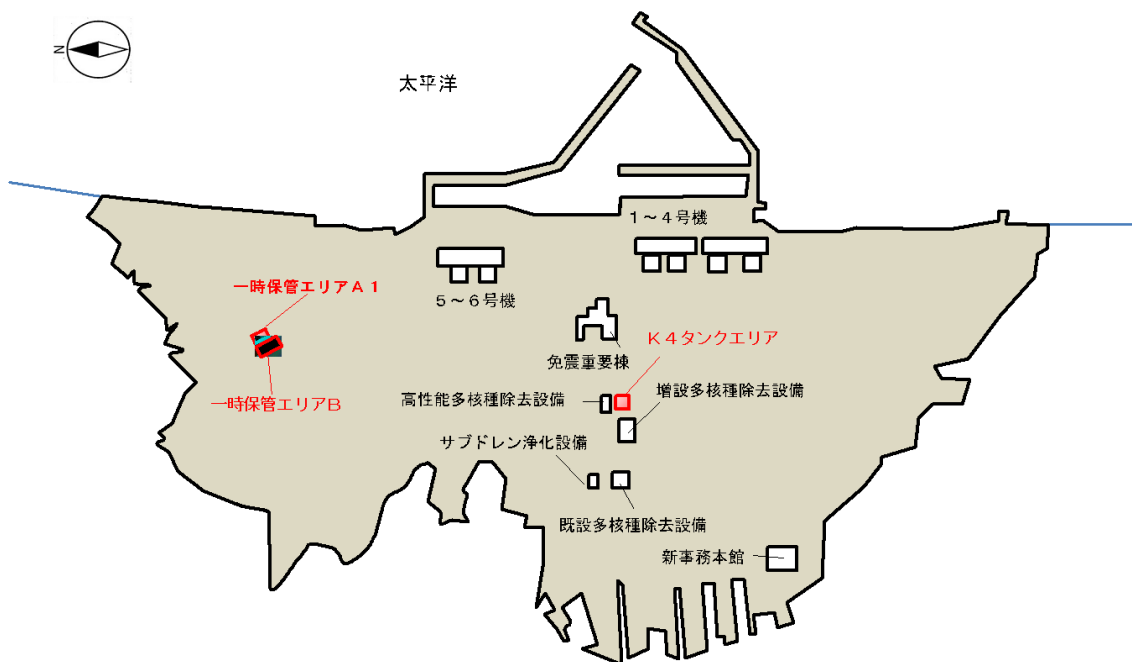
- (1) 瓦礫類一時保管エリアA1の状況
- (2) 瓦礫類一時保管エリアBの状況
- (3) K4タンクエリアにおける多核種除去設備等処理水希釈放出設備設置工事の状況
- (4) K4タンクエリアにおける地震計の設置場所見直しの状況

4 確認結果の概要

(1) 瓦礫類一時保管エリアA1の状況

東日本大震災以降、30mSv/h以下の瓦礫類を一時保管するためのエリアとして運用されていた瓦礫類一時保管エリアA1（以下「一時保管エリアA1」という。）は低線量率の瓦礫類を保管するためのエリアへの転用が行われた。前回（令和4年1月14日）は保管施設の整備を行っていたので、その後の状況を確認した。（図1）

- ・保管施設の整備は完了しており、1m³コンテナが4段積みで保管されていた。（写真1）
- ・目視の範囲では、1m³コンテナは整然と保管され、内容物の漏えいなどはなかった。（写真2）
- ・現場確認時、1m³コンテナの積み込みなどの作業は行われていなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
一時保管エリアA1の概観



(写真2)
一時保管エリアA1における1 m³コンテナの保管状況

(2) 瓦礫類一時保管エリアBの状況

前回(平成29年10月24日)に引き続き、瓦礫類一時保管エリアB(以下「一時保管エリアB」という。)を確認した。(図1)(写真3)

- ・1 m³コンテナは外側を3段積み、内側を4段積みで保管されていた。(写真4)

- ・ 1 m³コンテナは上から3段目まで、ネットで覆い、ネットは1 m³コンテナに結束バンドで固定されていた。(写真4)
- ・ 目視の範囲では、1 m³コンテナは整然と保管され、内容物の漏えいなどはなかった。
- ・ 現場確認時、1 m³コンテナの積み込みなどの作業は行われていなかった。



(写真3)
一時保管エリアBの概観



(写真4-1)
一時保管エリアBにおける1 m³コンテナの保管状況①



(写真4-2)
一時保管エリアBにおける1 m³コンテナの保管状況②

(3) K4タンクエリアにおける多核種除去設備等処理水希釈放出設備設置工事の状況

K4タンクエリアにおける多核種除去設備等処理水希釈放出設備設置工事の状況を前回(令和4年8月4日)に引き続き確認した。(図1)

- ・ 配管として用いられるPE管が、配管サポートに針金で仮固定されていた。(写真5)
- ・ PE管の溶着作業が行われていた。(写真6)



(写真5)
配管として使われるPE管の設置状況
(エリア北側を北西側から撮影)



(写真6)
PE管の溶着作業の状況 (エリア東側
を南東側から撮影)

(4) K4タンクエリアにおける地震計設置の状況

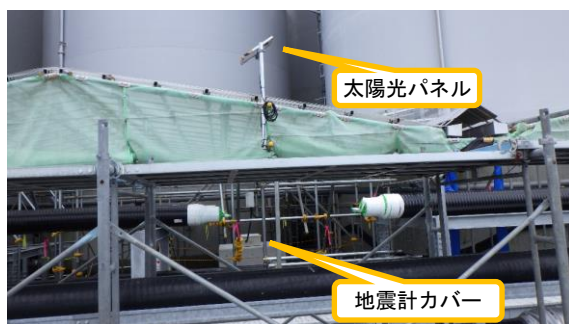
令和3年2月13日に発生した福島県沖地震を踏まえてタンクエリア (Dタンクエリア、H4北4タンクエリア、K4タンクエリア) に設置された地震計については、本年3月16日に発生した地震の際に一部で他地点と比べて特異な測定値を示したことがあり、原子力規制庁からタンク接地面の地震動が適切に把握できるように設置場所の見直しを求められていた。

東京電力では、8月完了予定で地震計の設置場所の見直しを検討していたことから、今回はK4タンクエリアの地震計の状況を確認した。(図1) (前回確認日：[令和3年8月6日](#) (地震計設置状況))

- ・ K4タンクエリアの北東側の内堰内に構築されたコンクリート基礎 (縦1.3m×横1.3m×高さ1.2m) 上に、新たな地震計が設置されていた。(写真7)
- ・ 既存の地震計では地震計に近接して設置されていた太陽光パネルは、地震計の設置場所と離れた外堰内に設置されていた。(写真8)
- ・ 内堰外面に固定したコンクリート基礎上に設置されていた既存の地震計は残置されていたが、太陽光パネルは取り外されていた。(写真9)



(写真7)
新地震計の設置状況（北側から撮影）



(写真8)
新地震計の太陽光パネルの設置状況
（エリア東側を東側から撮影）



(写真9)
既設地震計の状況（エリア西側を西側
から撮影）

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。